



医系学生通信

第12号
2014年1月30日

発行：静岡県民主医療機関連合会
〒420-0068 静岡市葵区田町 5-90
TEL:054-253-7275
URL: <http://www.shizumin.com/>



「ディオバン」の報道について

ひまわり薬局 関場一裕

ディオバンはノバルティスファーマ社が販売しているアンジオテンシンII受容体拮抗薬（ARB）に分類される血圧降下剤です。ARBの市場は2010年の統計によると全血圧降下剤市場の約半分を占め、ディオバンはARB市場のトップを占めています。今回、ディオバンの一番の売りとしていた心筋梗塞



や脳卒中などの心血管イベントの発症の危険を抑制する効果に対する研究論文の一部にデータ改ざんがあると考えられ、論文の撤回という異例の措置となりました。

データ改ざんが疑われる二つの大学の論文について詳しく説明します。

一つ目は京都府立医大の論文で、日本人の高血圧患者約三千人のデータから、ディオバンがほかの降圧剤より脳卒中や狭心症を減らせると結論づけられました。府立医大は調査の結果、「この結論には誤りがあった可能性が高い」としています。具体的には、カルテが確認できた二三人の患者について脳卒中や心不全などの発生数に着目し、解析データにカルテに記載のない病名が使われていたり、記載のある病名が使われていなかったりするケースが計三四件見つかりました。この操作はディオバンを使った患者のグループでは病気の発生数を減らし、使っていないグループでは発生数を増やす傾向

がありました。

二つ目は慈恵会医大の論文で、慈恵医大付属病院および関連病院の高血圧患者約三千人を対象に行われた研究です。しかし、外部委員を含む調査委員会は関係者からの聞き取りのほか、大学が保有していた六七一人のデータを分析したところ血圧値八六件の食い違いを確認しました。どちらも心血管イベントの抑制効果を裏付ける主な論文として発表されているもので、データの解析過程においてノバルティスファーマ社の元社員が関わっていたことが明らかになっています。

全日本民医連では、これらの事は、許されない反社会的な行為であり、薬害を生みだしてきた社会構造の問題として重大に受け止め、ディオバンをはじめ、ノバルティスファーマ社が製造販売する医薬品の購入自粛を決めました。今回の報道は、研究データの改ざんの氷山の一角にすぎないかもしれません。

医学生、また医療従事者の方々にここに留めておいていただきたいのは、広告や宣伝、製薬会社の言うことをそのまま信じるのではなく、正しい事をしっかりと吟味できるようにしてください。 そのためには、日頃から多角的に情報を見て頂きたいのと、薬剤師や他の職種と連携して今後働いてほしいという事です。その一部として、全日本民医連では薬事委員会を設け、有効・安全・安価な薬物療法の担い手であることを目指しています。



福島に被災者に寄り添って

—岐阜・御殿場にて保養プロジェクトを行いました—
静岡民医連事務局長 高橋俊和



二〇一一年三月十一日午後二時四六分ごろに発生した「東日本大震災」は、M(マグニチュード)九.〇で気象庁観測史上最大の地震でした。福島第一原発ではその地震の揺れと津波により、核燃料の冷却機能が停止しました。その結果メルトダウンや水素爆発をおこし、大量の放射性物質が大気中に飛散し、大地を汚染しました。多くの住民が故郷を捨て、各地域に避難する事態になりました。

その様な中、全国で震災の人々を励まそうと様々な保養プロジェクトを企画しました。その一つとして昨年引き続き二本松市のお寺が運営する幼稚園に通っていた仲間七家族二五名を、岐阜・御殿場に八月十七日～二十日(二〇日～二二日までが御殿場)の日程で招きました。

今回の主催団体は、真宗大谷派の岐阜教区が中心となり実施されました。岐阜ではお寺に泊まりながら、川遊びやバーベキューなど自然にふれあう企画を行いました。



静岡では御殿場の国立駿河療養所に泊まって、ハンセン病について学んだり、遊園地・動物園・アウトレットなど大人の保養も含む企画を行いました。参加した人たちは、昨年駿河療養所の自治会長のハンセン病の闘いの歴史を学ぶ中で、「このまま国や行政の言う事を黙って聞いていたらダメなんだ。」「自分で学習し考え行動しなければいけない。」という事を学びました。

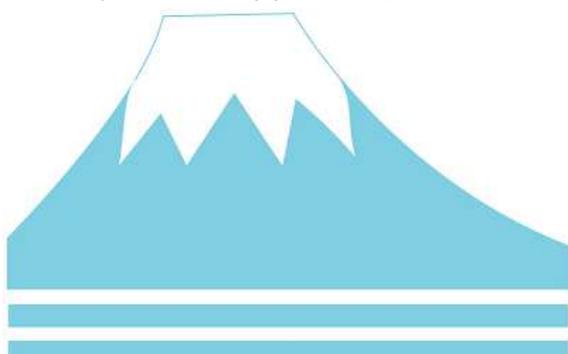
昨年プロジェクトに参加してから、様々な活動(原発反対集会、各種学習会、甲状腺エコー検査など)に積極的に関わることになりました。また子ども達の健康管理については特に行政任せにせず、積極的に関わることになり、現在国が定めている二年に一回の甲状腺検査について疑義を持ちながら、子ども達の健康について不安を抱いていました。

今回、企画を検討する中で、親たちから子供の甲状腺エコー検査と医師との懇談を切望していたこともあり、三島共立病院で小児の甲状腺エコーと静岡県保険医協会会長(生協きたはま診療所長)の期間医師に依頼をし、双方とも快諾を得て、実施の運びとなりました。

エコー検査は二日分け子供一名、大人二名の合計三名が検査を受けられ、結果については福島の郡山生協病院へお願いをしました。

期間医師との懇談は二時間行われ、親たちからはこれまでの疑問や不安、今後の健康管理など様々な質問が出て、期間先生も丁寧に応えていました。あつという間の二時間でしたが、**親たちはこれまでのややもやが少しは晴れたようで、二年間の不安が晴れた**など先生との気さくな懇談ができた大変喜んでいました。来年も実施される保養プロジェクトで、**再度検査を受けたい**とのことでした。

今回の検査と期間医師との懇談を通じて改めて、原発事故の被害は継続しており、**地元周辺に今でも暮らしている方々の不安と苦しみは続き、解決の方向性が見えないトンネルの中でもがいている**という状況です。私たちができることは、その不安や疑問を少しでも和らげていくことだと思います。実態を直視し同じ目線・同じ立場で、様々な方法で解決に向け取り組んでいきたいと思えます。



企画 レポート

三四回「医学生をつどい」報告

静岡民医連浜松事務所 佐藤秀樹

第三四回「民医連の医療と研修を考える医学生をつどい」（通称：医学生をつどい）が八月五日〜七日の三日間、愛知県の豊橋にて開催されました。医学生をつどいの目的は学習や企画を通して自らの医師像を模索していくことです。講演会や分科会、グループディスカッションを通して上記のテーマについて真剣に議論し、学びを深めました。

今年是全国から医学生が約一三〇名参加し、浜松医大から三年生のMさんが参加しました。

初日には川崎協同病院の和田浄史医師が「患者さんに寄り添うことーエンドオブライフケアと民医連の医療ー」と題して講演を行いました。和田医師は終末期医療に対して、「タイミングをはずさない」「タブーを作らない」をモットーに、終末期の患者さんの思いに寄り添う活動を紹介しました。具体的には「娘の花嫁姿を見たい」「自分のペットに会いたい」などの患者さんの思いを、病院のスタッフが困難を乗り越え、それぞれで見つけ、かなえる活動を行っていることでした。



和田医師の講演会では患者さんに寄り添う大切さを実感できました。

Mさんは「あまりほかの大学の医学生と話す機会がなかったの
で良かった。みんな（医者になるぞ！という）モチベーションが
高い。私もがんばらなきゃ！」と感想を述べていました。

職場紹介

地域に頼られる診療所をめざして

生協きたはま診療所 看護師 神谷栄里

こんにちは。生協きたはま診療所です。診療所が開設されて、十四年がたちました。ベテラン中堅の医師2名を中心に看護師、事務、放射線技師、栄養士など総勢十四名で患者さんを診ています。

今年若い女医さん、看護師も入職して、平均年齢がぐっと若返りました。新しいスタッフが加わったことで、診療の幅が広がってきています。常に最新の情報を勉強できる診療所でありたいです。

診療所は病院より、より地域に根付いた場所でもあります。患者さんひとりひとりの人柄や家族関係や職業など、病気だけでなく、患者さんの背景まで考えた看護や支援がきめ細かくできるように配慮しています。具合が悪い方、気になる方にはこちらから、電話を入れて様子を聞くなどしていきます。往診も行っていて在宅の患者さんや家族の方の支えに少しでもなればと思っています。急に具合が悪くなった方にもすぐ対応できるように小回りが利いて安心してもらえるような対応もしています。

地域の中で、あの診療所に行って相談したいと思っただけのような雰囲気職場になるように心がけています。

学生の皆さん、診療所には病院とまた違った役割もあります。診療所にも是非「職場体験」にいらしてください。



リンゴを持ってみんなでハイ、ポーズ！

おすすめ 情報☆

折り鶴：・友達のお見舞いなどで、皆さんも一度は作ったことがありませんか。ツルは基礎的な折り紙遊びで、私にとって飽きあきた作品の一つでした。

浜松佐藤町診療所
医師 水谷民奈



しかし、小学生高学年の頃でしたか昔の折り鶴遊びを解説した本に出会って衝撃を受けました。繋がった鶴の作品集です。初めの切り込みの絵しがなく、未だにどう折ればいいのか分からず完成できない作品も中にはあります。



じえじえじえ！1枚の折り紙だけでこのような作品が出来るとはすごいですね。

よく作った「雛遊び」(写真)という作品を久々に折りました。親鶴のお腹に八羽、口・尾・羽に四羽、計一二羽の子鶴がくっついていきます。完成するのに一時間。難しいほど作り上げた達成感もひとしおです。

(※水谷医師が在籍する浜松佐藤町診療所には、毎年浜松医科大学から地域医療研修の一環として研修医が来ております。By 編集者)

医療情報 in 静岡

医大設置、戦略特区に提案 川勝知事「東部が念頭」

県は九日、国が募集している国家戦略特区に「グローバル人材育成のための医科系大学・大学院の設置」を提案したと発表した。川勝平太知事は定例記者会見で「医師の不足している東部地域が念頭にある」と述べ、特区指定で県東部への医大誘致の環境整備を図りたい考えを示した。

具体的なプロジェクトとして、医大や医科系大学院を誘致し、県内で従事する医師や新しい治療法を開発する研究者を育てる。付属病院では高度な専門的医療を提供する。国際貢献ができる日本人医師の育成にも努め、海外からの医師留学生も積極的に受け入れる。

必要な規制改革として(一)医学部新設認可の緩和(二)外国人医師の臨床研修期間を現行の二年から四年に延長する制度の見直し(三)付属病院の病床規制の緩和を盛り込んだ。

医大誘致は過去二回の選挙で公約に掲げた知事の肝いりの政策。知事は「さまざまな大学・医療関係機関と交渉し、文部科学省や厚生労働省にも働き掛けをしてきたが、協議が整っていない」と説明し、「首相主導の戦略特区で、岩盤と言われる省庁の厚い壁を突破したい」と述べた。

二〇一三年九月十日 静岡新聞より

イベントスケジュール

「3月つどい」参加者(医学生)募集中！！

民医連では毎年8月に「医学生をつどい」(正式名：民医連の医療と研修を考える医学生をつどい)を行っております。毎年約200人の医学生が全国から集まります。民医連のこと、医療のこと、そして私たちや患者さんを取り巻く社会のことを皆で考え学べる場です。「3月つどい」では夏の「医学生をつどい」に向けてみなさんの学びと交流を深めていきます。ぜひ参加お待ちしております!!

日程：2014年3月24日(月) 14:00 ~ 26日(水) 12:30 場所：東京グランドホテル

※詳細については下記問い合わせ先までお願いします。

イベントのお申込み・お問い合わせ

☞ 医学生
静岡民医連浜松事務所 担当：小黒・佐藤・小高
Tel：053-435-5932
e-mil：igakutai@shizumin.com

☞ 看護学生・薬学生
三島共立病院 学生担当
Tel：055-973-0882
e-mil：kangakusei@shizumin.com